

AMDA Journal 号外

ダイジェスト

発行：2001年12月 No.14 定価：100円
 発行元：〒701-1202 岡山市楠津 310-1
 AMDA (アムダ)
 TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
 E-mail：member@amda.or.jp
 編集：AMDA 会員情報局
 ホームページ：http://www.amda.or.jp

必要とされればどこへでも

パキスタンにおけるアフガン難民緊急救援活動

AMDAのパキスタンにおけるアフガニスタン難民緊急救援活動におきましては、皆様から多大なるご支援、ご寄付をいただきまして有難うございました。AMDAスタッフ一同厚く御礼申し上げます

今回の第1次派遣チームの活動を報告します。

10月7日(土)の深夜、正確には8日(月)の午前1時すぎ、マスコミから本部にひっきりなしに取材の電話が掛かった。アメリカによるアフガニスタンのタリバンに対する報復攻撃が始まったのだ。鳴り止まない電話が今回の空爆をもたらす意味の大きさを物語っていた。AMDA本部では空爆開始前からアフガン緊急救援第1次隊のパキスタン派遣を決定し

→パキスタン支部の医師と日本人派遣医師による診療風景



ていた。しかし、空爆が始まって、より危険度の高まった地域で、どれだけの診療活動ができるのか、なにより飛行機はパキスタンまで飛ぶのか、等々、不安は募るばかりだった。

(P2に続く)

NGOだからできる活動

— 現地の声を聞く —



AMDA・ドリーム・プログラム開始

AMDA インターナショナル プログラムマネージャー
 高瀬 かおり

今、世界の80%の富を握っているのは僅か20%の人々にすぎません。残る80%の人口は貧困という現実に見まわっています。もし、この80%の貧しい人々が貧困から抜け出すための努力と協力を、誰からの押し付けでもなく自らの意思により始めることができたら…。そのような考えから生まれたのが、「AMDA・ドリーム・プログラム」です。これは、情操教育やスポーツを通じて、貧困という現実を乗り越えるコミュニティの人々に広い心・チャレンジ精神・協力精神を養ってもらうというものです。こうした精神を持たずしてモチベーション(やる気・意欲)が出てくることはないでしょう。モチベーションがない人に対して、いくら国際社会が教育や職業訓練などの援助を行って

も、彼らが貧困から抜け出すことにはつながりません。世界各国の教育カリキュラムを見ると、必ず芸術や体育の時間が取り入れられています。それは、学校教育の目標とは学問を教えるだけではなく、心身ともに健康で、生きる力・工夫し考える力を持ち、社会に貢献するような人間を育てることを目指しているからです。

では、途上国で貧困のため学校教育を受けることのできなかつた人々はどうでしょうか。彼らには情操教育を受けたり、スポーツをしたりして、いわば精神的に成長するためのトレーニングを受ける必要はないのでしょうか? そんなことはありません。芸術やスポーツを通じて、自分の能力を発揮することができるそれが自信につながります。あるいは自分より優れた他人の能力を認められるようになります。他人を認められない人は自分を認めることもできません。即ち

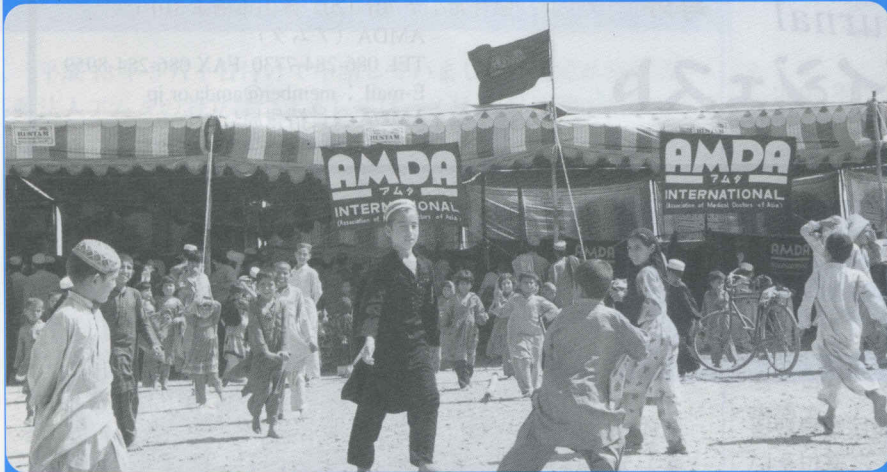
自分を認め他人を認めることがモチベーションとしての第一歩になります。人は前述の広い心、チャレンジ精神、協力精神を持つようになると、自然と夢を持つようになります。夢があれば、自分の能力を使ってチャンスを求め、結果を出そうと努力します。貧しい人々が夢を持つようになること、それがAMDA・ドリーム・プログラムの目標です。

「AMDA・ドリーム・プログラム」は三つのプロジェクトから構成されています。

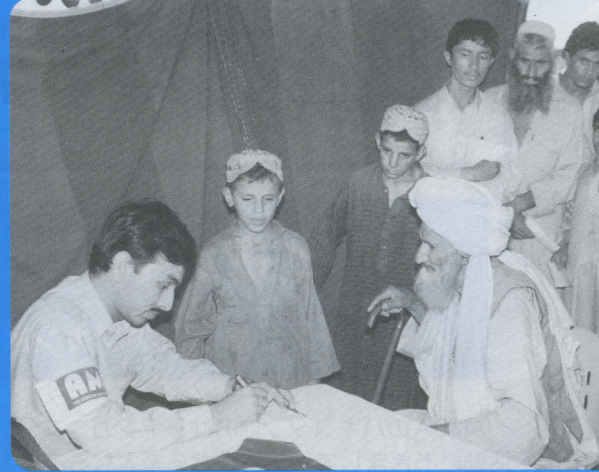
1. 職業訓練プロジェクト (縫製・木工訓練、小規模融資)
2. 保健教育プロジェクト (保健教育、クリーンアップキャンペーン)
3. AMDAクラブ (音楽クラブ：歌と舞踊、サッカークラブ、エッセイコンテスト)

AMDA・ドリーム・プログラムは既にケニアで実施されています。キベラスラムの青年たちが夢を持って生きていけるようになることを目指して、職業訓練や保健教育と組み合わせてサッカーやコーラスといった「AMDAクラブ」の活動が行われています。

まだ始まったばかりのAMDA・ドリーム・プログラムですが、将来は他の地域にも広げていきたいと思っております。これからも皆様のご支援を宜しくお願いいたします。



パキスタン・ソフラブ・ゴス近郊 アフガン難民キャンプ内での診療所開設



仮設診療所内での問診

第1次派遣チーム

予定していたパキスタン行きの飛行機が突然キャンセルされ、ようやくドバイ経由でカラチに向かうことができたものの、空港に乗り継ぎで到着する度に、カラチまでなんとか飛んでくれと祈るような気持ちであった。

今回のチームは、若山医師はアフガンでの難民支援の経験があり、上田医師もアルバニアでの難民支援の経験があり、寺尾看護婦、鈴木看護婦は、インドのマザーハウスでの経験があったことで、医療救援活動への不安はなかった。事実、皆がそれぞれ自分の長所を出し合い、また意見を言い合い、まとまりのあるチームとして行動できた。

デモとストライキのはざままで

12日昼前、パキスタン南部の港湾都市カラチに無事到着し、AMDAパキスタンのメンバーに迎えられた。その日はイスラムの休日にあたる金曜日で、午後のお祈りの時間のあと大規模なデモが予定されている報告を受けていた。市内は、閑散としていたが、とにかくデモが始まる前に急いで宿舎に直行した。その日以後、私たちは安全を最優先にして行動することになった。

空爆以後、パキスタンでは、デモやストライキが頻発した。クエッタなどでは国際機関やNGOの事務所がデモ隊の襲撃を受けるなどの事件があり、治安が急速に悪化していた。これらの影響で、外国人がアフガン難民キャンプで診療行為を行なうことが非常に危険であるため、カラチ滞在を余儀なくされた。新聞やテレビで難民が次から次へと押し寄せる情

報を得ながら、いたずらに時間だけが過ぎるのがなんとももどかしかったが、日本の医療チームが必要とされる機会が訪れることをひたすら待った。この間、カラチ市内の病院や地域開発プロジェクトを視察するなどし、現地パキスタン医師と難民キャンプでの診療活動の可能性について協議を重ね、事前準備に時間を割いた。

アフガン難民キャンプでの診療活動

10月20日(土)AMDAは、日本人チーム5人とパキスタン人チーム17人の多国籍医師団を結成し、2人のパキスタン人随行員とともに、カラチ市内ソフラブ・ゴス難民キャンプでの診療活動を始めた。テント15張はあろうかという仮設診療所を舞台に、250人のアフガン難民の診察にフル回転であたることになった。その日は、日中35度にもなる蒸し暑い日だった。

ソフラブ・ゴス難民キャンプは、1982年頃旧ソ連のアフガニスタン侵攻を受けてできたキャンプだ。キャンプの人口は明確でなかったが、1万人から3万人規模と推定された。カラチ市内から北西に20キロメートルほど離れた乾燥地帯に忽然と現れる巨大な都市スラムという感じで、明らかに概観はパキスタン人の居住区とは違っていた。

今回のテロ事件以後、このキャンプに新たにアフガニスタンから流入した難民には出会わなかった。アフガン難民のほとんどは、国境を越えられず、アフガニスタン内部に留まらざるを得ないからだ。このキャンプにテロ以後に難民となったアフガニスタン人が入ってくるのも時間の問題かもしれない。もちろん今回の第1目的は国境を越えて来るアフガン

パキスタンにおけるアフ

10月11日～

AMDA第1次緊急救援チーム

難民を支援することではあったが、AMDAは流入時期によって難民を差別するようなことはない。このキャンプには国際機関や国際NGOの支援は入っていなかったが、AMDAの活動が受け入れられるまでに1週間ほどかかった。

AMDA多国籍医師団は、内科、外科、小児科と3つに分かれ、それぞれ日本人医療チームとパキスタン人医療チームがコンビを組んで、午前11時過ぎから午後3時まで診療を続けた。合計250人の患者を診察したが患者の6割は10歳以下の子供で、次に年離れた男女が多かった。診察を始めると、それまで待ちわびていたかのようにキャンプから子供連れの母親が多くやってきた。外来受付や薬受け渡し場所には人があふれ、騒然とした。患者の症状は蚊やダニなどの虫さされによる皮膚疾患、呼吸器系疾患、栄養不足による貧血、マラリア、結核が多く見られた。処置としては、外科的皮膚処置、内服薬投与(抗生剤、ビタミン剤、鉄剤、筋肉注射)で対応した。薬を渡すとき、医療スタッフが足りず、現地のカメラマン、ガードマンまでが自分の仕事を差し置いて、患者の名前を呼んで薬を手渡した。この難民キャンプでは重度の栄養失調児はみられなかったが、もしかしたら本当の重病人は、われわれの診療所にも来れずにいたのかもしれない。

実際に診療が始まれば医師・看護婦の方は、それぞれプロである。それまで見ることの無かった真剣な表情、てきぱきとした行動を垣間見、ある意味感動し



診療風景



クエッタでの医薬品支援

ガン難民緊急救援活動

10月25日

主任調整員 谷合 正明

た。特にこれまでキャンプでの医療活動の経験がある上田医師や若山医師は、すばやくパキスタン人医師と診療活動に入られた。外科を担当した若山医師はまず患部を診るというより、相手の心を診るといったほうが正解なくらい、一瞬にして患者の信頼を得ていた。私自身、日本人医師・看護婦に向かって泣いてよろこぶ老人の姿を何度か目の当たりにした。一方で処方した薬や日本から持ってきた機材に信用がおけないのか、それを拒否する難民もあり、激しい感情の起伏にとまどうケースもあった。

今回大いに反省したことは、アフガン難民の女性にカメラを向けたということで、診療活動が終わった夕方に一時緊張が走った。仮設診療所に向けて投石や撤去を始めようとする難民がいたのだ。撮影の許可は事前にとってしたが「ユダヤ教徒が、アフガン女性を撮影した」といううわさが広まり、彼らの怒りをかっただけ形となった。

私は、今回のパキスタンにおけるアフガン難民医療支援は、従来の緊急救援活

動とは比較にならないほど、医療支援を始めるまでの難民との信頼関係の構築が必須であることを痛感した。信頼関係なしで支援活動を始めことはできない。今まで日本がアフリカや旧ユーゴでの内戦において政治的にほぼ中立な立場であったのとは違い、この度は大きく関わっている。アフガニスタン人にとってみれば日本は敵なのである。戦時下での活動という大きな難局に直面しているが、こういう時だからこそ、逆にNGOの持つ「現地の人々と直接対話ができる」利点が発揮されると信じている。

国境に近づく

帰国日が迫る中、ようやく空路でアフガニスタン国境近くの主要都市クエッタに行くことが出来た。高温多湿のカラチと違い、標高の高いクエッタは朝晩の気温はめっきりさがる。これから冬場に来て氷点下になれば、難民のとりわけ子供の健康状態が悪化することは誰の目にも明らかであった。クエッタには、多くのNGOや政府の調査団が来ているが、安全確保ができていない理由で、なかなか食糧・生活必需品(飲料水、テント、毛布)・医療等の支援が行き届いていない。医療ニーズは大変大きい、混沌とした現場では支援の手を的確に伸ばすのには時間がかかっていた。またアフガン難民

はクエッタから先のチャマンという国境の町に押し寄せてきているが、アフガニスタン領側で多く留まっているようであった。

クエッタ市内のJAM E SHAFA病院を訪問した。この病院はアフガン難民のためのアフガン人医師が経営する母子保健病院で、訪問した当時も患者であふれかえていた。抗生物質をはじめとする医薬品や検査の試薬が不足し、停電も頻繁に起こると病院スタッフは嘆いた。協議の結果、日本から持参した抗生物質、鎮痛剤、利尿剤、気管支拡張剤、血管拡張剤、ビタミン剤などの薬を提供した。

息の長い支援活動を

アフガニスタン国内にはもともと国内避難民が何百万もいた。空爆がたとえ終わっても、その後、難民にとって待ち構える現状は著しく厳しい。冬場を迎えて長い長い窮乏生活を強いられるに違いない。今は、マスメディアも注目しているが、次第次第に関心が薄れ、結果として忘れ去られる難民がでてくるのを危惧する。可能な限り難民を支援し、これ以上の難民をださない努力をすることが求められていると思う。

AMDAでは息の長いアフガン難民救援活動を続けていきたいと考えています。皆様のご支援をお願いいたします。

■今後の活動に向けて、皆様からのご支援ご協力を是非ともよろしくお願いいたします。

お振り込み先 郵便振替 口座番号 01250-2-40709 口座名AMDA

通信欄に「アフガン難民支援」とご記入下さい。

中国銀行一宮支店(普通口座) 1347126 特定非営利活動法人アムダ

※銀行振り込みでは、ご住所がわかりませんので振り込みをもって領収に代えさせていただきます。

領収書及び活動報告を郵送ご希望の方は別途お申し出ください。

尚、寄付控除のご希望は別途ご連絡ください。 Tel:086-284-7730 Fax:086-284-8959

AMDA NPO 法人化

平成13年5月1日付けで申請していました、特定非営利活動法人アムダの設立につきましては、8月30日に岡山県より認証され、9月10日法人成立いたしました。

今後ともご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

—設立趣意書より—

21世紀は、「多様性の共存」、世界的レベルでものの見方や考え方の異なった人達が如何に共存共栄していけるかということが時代のテーマとして重要になってきます。そのキーワードは「尊敬と信頼」だと確信しています。これまでのNGO活動をとおしての経験から「相互扶助に基づいた現地優先志向のプロジェクトの実施を通して平和への国際的なパートナーシップの確立」が急務であると考えています。

私達の平和への定義は「今日の家族の生活と明日の家族の希望」が実現できる状況です。この平和を妨げる要因として戦争、災害、そして貧困があります。これらの要因を改善および解決する積極的なプロジェクトを共に実施する中でこそ「尊敬と信頼」を共有することが可能となると信じています。

私達はこのようなプロジェクトを実施するために下記の人道援助3原則を共有しています。

- 1) 誰でも他人の役に立ちたい気持ちがある
- 2) この気持ちの前には民族、宗教、文化等の壁はない
- 3) 援助を受ける側にもプライドがある

私達は、プロジェクトを実施するために一番大切なことは支援を必要としている現地の人達のニーズを最優先し、その上で共に協力し合うことだと考えています。従って、国際的な人間のネットワークを支部および姉妹団体として拡充しています。この国際的なパートナーシップのネットワークに基づいて、難民や災害被災者に対する緊急人道援助、貧困対策そして平和構築モデル活動を推進しています。

世界中の人間疎外の状況に生きる人々を対象に、「多様性の共存」という理念のもと、相互扶助精神に基づいて現地優先型のプロジェクトを実施することにより、「平和へのパートナーシップ」の国際的ネットワークを推進し、世界の平和に寄与すること、またその理念の啓蒙普及を目的として、特定非営利活動推進法に基づき特定非営利活動法人アムダを設立いたします。

特定非営利活動法人 **アムダ**
理事長 **菅波 茂**

クリック募金

- * NPOと市民をつなぐNPO応援ポータル「GambaNPOネット」
<http://www.GambaNPO.net>
- * いつも一緒にの携帯で、今すぐ出来るボランティア「チャンネルV」
i-mode <http://i.v-e-v.net>
- Ezweb EZインターネット→ニュース・天気→全国ニュース→ボランティア・チャンネル
- J-Sky メインメニュー→ニュース・天気→ボランティアNEWS

※アースセクタ株式会社、ビザースピーネットワーク両社のご厚意によりAMDAの活動を掲載して頂いております。皆様のご支援をお願いいたします。

オンライン寄付

ご寄付の御礼とお願い

2001年のAMDAは、エルサルバドル地震、インド地震、ミャンマー洪水、米国同時テロ被災者、アフガニスタン難民への緊急救援活動を実施するとともに、下記の16ヶ国において長期的支援活動（医療支援・保健衛生教育・自立支援・生活向上支援等）を実施しました。

アジア： カンボジア・ミャンマー・ネパール・バングラデシュ・インド・パキスタン

アフリカ： アンゴラ・ウガンダ・ケニア・ザンビア・ジブチ・ルワンダ

ヨーロッパ： コソボ自治州

中南米： ペルー・ボリビア・ホンジュラス

こうした活動を支えて下さった皆様へこころより御礼申し上げます。これからも現地の人々の声を聞きながら、現地の人々のための国際人道援助活動を続けていきます。

郵便振替 口座番号 01250-2-40709

口座名 AMDA

指定ご寄付の場合には通信欄に明記して下さい。

例：支援国 支援事業

尚、寄付控除のご希望ありましたら、別途ご連絡下さい。

電話 086-284-7730

アフガン難民緊急支援 第2次派遣開始

11月26日、アフガニスタン難民医療支援活動への協力・準備のため、谷合調整員が再びパキスタンのクエッタへ向けて出発しました。



アフガン難民キャンプでの救援活動

■ AMDA 会員を募集しています

皆様のまわりにAMDAに関心がおありの方がいらっしゃいましたらご紹介下さい。

「AMDAパンフレット」を送付させていただきます。

問い合わせ先：AMDA 電話 086-284-7730

member@amda.or.jp

みなさんのちからを
必要とする人たちが
います



■ AMDA 募金箱を置いていた
だけの方、ご連絡ください。
TEL 086-284-7730